

10/10 福井

# がん検診県内大幅減

## 昨年度コロナ受診控え

50% → 32%

約30%減少しており、1万人以上の人が発見されたとの推定もある。横浜市立大の調査では、20年は全般的にステージ0、

ステージ1の早期で見つかった大腸がんが約30%減少する一方、進行したステージ3は60%以上増加している。

福井県内の2020年度のがん検診受診率が32.4%（暫定値）にとどまり、19年度の50.4%を大幅に下回ったことが県がん審議会のまとめで分かった。新型コロナウイルス感染拡大の影響による受診控えや検診の延期・中止が相次いだことが要因となりえる。日本人に多いとされる肺がん、大腸がんの受診者の落ち込みが特に目立つ。県内の医師は早期発見の機会を逃している恐れがあると警鐘を鳴らしている。

（前田和也）【3面に関連記事】

県内の医師らでつくる県がん委員会がん検診部会によると、五大部位（胃、肺、大腸、子宮頸、乳房）の県内の平均受診率は、16年度以降4年連続で50%台を維持していた。（）のうち、肺がんの受診率（対象者約32万人）は、19年度70.9%と高かったが、20年度は受診者が約12万人減少し32.9%だった。大腸がんも46.2%から25.6%に低下し、受診者は約6万人減った。このほか、胃がん26.6%（19年度36.3%）、子宮頸がん38.8%（同42.7%）、乳房がん43.5%（同48.6%）だった。

日本対がん協会による